

1 はじめに

本稿は主に通訳訓練手法として用いられているスラッシュ・リーディング・メソッド (slash reading method、以下 SR と略称) について検討することを目的とする。翻訳における最も重要な能力は原文を適切かつ精密に読み解く読解力にあることは論を待たない。また、実際の通訳業務 (特に会議通訳業務) の際には読み原稿が事前に提供されることも多く、通訳の現場では原発言を聴きつつ、原稿を見ながら口頭で訳出する、いわゆるサイト・トランスレーション (sight translation ; ST, 視訳) を行うことが要求される。しかるに、翻通訳を学習中の訓練生の例を見ると読解力が十分でなく適切な訳出ができない例が非常に多い。特に語法的な誤読の多さは看過できない問題である。誤訳箇所について学生に「なぜそのように理解したのか」と根拠を問うと「何となく」という答えが大半であり、実詞 (自立語) ⁱ⁾の表面的なイメージだけで日本語に置き換えていることがわかる。さらに修飾・被修飾関係、因果関係、係り受けなどについて確認すると誤読の主な原因が語法的理解の低さにあることがわかった。語法的な誤読は虚詞 (機能語) ⁱⁱ⁾に対する不注意と理解不足にその原因を求めることができる。そこで通訳者が業務準備として行う SR によって訳出前に原稿を加工する方法を学生に指導することにより、語法に基づいて理解する意識を植え付け、読みの能力を向上させ、精確な翻訳を可能にすることができるのではないかと考えた。なお、英語学習においては SR による読解力向上についていくつかの論文が見られる ⁱⁱⁱ⁾が中国語教育においてはまとまった研究がほとんど見られないことから、中国語の語法を踏まえた SR について検討することが必要であると考える。

2 SR とは

現在は上述のように英語学習の一環として導入されることがある SR であるが、本来は通訳者が「事前に提供された原稿を、訳出を目的として、記号をつけながら読む方法」である。以下に筆者が実際の通訳業務で使用した原稿の例を示す。

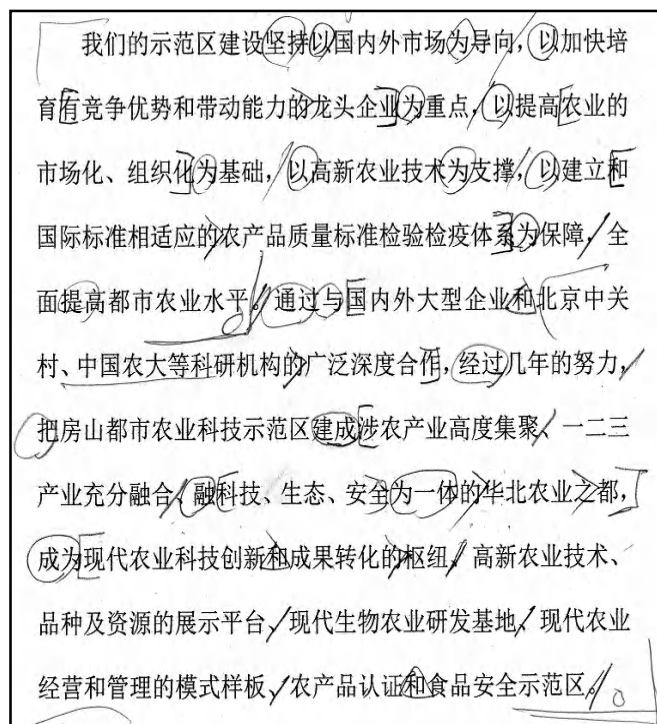


図 1

本人亦於8月9日奉派在臺灣南部協助救災、^{道路通行止め}連續住了11天、目睹災情的慘重、^{路斷、橋毀、橋の崩壊}河道淤積、^{造成}造成291人死亡、³⁸⁷387人失蹤、⁴⁵45人受傷(8月24日止)之人命傷亡;^{超過}超過6,000人要搬離原有的居住地;農林漁牧產物及民間設施災情損失達144億元(8月24日止)由於氣候變遷、^{地球温暖化}地球暖化影響、^{目前稱為「極端氣候」}目前稱為「極端氣候」、此次連續兩天的降雨量接近3,000mm、^{等於過去一整年的雨量}等於過去一整年的雨量、讓人瞭解到愛護地球、^{與大自然和平相處的重要}與大自然和平相處的重要。

図2

2.1 SR とサイト・トランスレーション

図1および図2は原稿付き同時通訳 (simultaneous interpretation with text; SI/T, 有稿同伝) の事前準備のために記号をつけた原稿である。

SRは通訳者が原稿を精確に理解し訳出を支援するための事前準備の一手法である。スラッシュとダブルスラッシュを用いる以外には特に決まった方法はなく、それぞれの通訳者によって切り分け方や記号の用い方は異なる。通訳者は十分な読解力をすでに身につけているため、図1に示したような直感的なSRによる準備を行うことで素早く訳出することが可能である。また、通訳訓練生の指導に際しても単に「訳出開始可能な意味の切れ目にスラッシュを入れ、一文訳出終了部分にダブルスラッシュを入れる、数字や固有名詞など確実に訳出すべき部分にマークする」等の大雑把な説明のみを行っており、通訳者養成校においてもSRに焦点を絞った指導が行われることはきわめて少ないiv。

しかし、読解力が不十分な初学者の指導においては、語法を意識しながら一字一句(さらに文章記号)も忽せにしない翻訳者のような読みを身につけさせることが目標となる。そこで、本稿では新たに「読解力向上を主な目的とし、翻訳通訳を視野に入れたSRの指導」について提案したい。

2.2 SR による読解例

SRは本来「通訳者が訳出を目的として原稿に記号をつけながら読む方法」である。筆者が実際の通訳業務で使用した原稿の例から見ると、スラッシュ (/) でひとまとまりの訳出単位を括り、ダブルスラッシュ (//) で単文の終わりを示し、動詞と機能語を○で囲み、[] である程度の長さのある名詞句または並列情報を括り、>で連体修飾を、△で介詞(助辞・接続詞)を示していることがわかる。このSRを通じて図1の原稿を日本語に直訳すると、/ごとに区切られた以下のようなものになるはずである。

我々のモデル地区建設は国内外の市場をターゲットとすることを堅持し、/ [競争力と産業をリードする力のある>主力企業] を早急に育成することを重点とし、/ [農業の市場化・組織化] を基礎とし、/ ハイテク農業技術をその支えとし、/ [国際的なスタンダードに相応しい>農産物品質基準検査検疫システム] を確立することを保障とし、/ 全面的に都市農業のレベルを向上させる。[国内外の大企業(と)北京中関村、中国農業大学など科学研究機関(と)の>広く深い協力] を通じて、数年の努力を経て、/ 房山都市農業科学技術モデル地区を [農業に関連する産業が高度に集中した、/ 第一・二・三次産業が十分に融合した、/ 科学技術・エコロジー・安全が結びついて一体化した>河北農業(の)都市] として建設し、/ [現代の農業科学技術革新(と)その成果を転化する>中心地域、/ ハイテク農業技術・品種(および)資源を展示するプラットフォーム、/ 現代のバイオ農業研究開発基地、/ 現代農業経営(と)管理の範となるモデル、/ 農産物認証(と)食品安全模範地域] として建設する。

(※○と△で囲んだ部分は文字入力の関係から便宜的に□と()で示した。また、実際に

翻訳・通訳を行う際には以上の逐語訳をより自然な日本語に再編集する必要がある。)

通訳者の用いる SR は直感的かつ個人差が大きい、以上のような語法に基づいた読みを中国語翻訳通訳教育に応用することは意味のないことではないと考える。

3 ST の技法

前述したように文字テキストを参照しながら通訳することをサイト・トランスレーション (サイトラ、**sight translation ; ST**, 視译) と呼ぶ。ST には原稿付き同時通訳 (サイトラ同通、**simultaneous interpretation with text ; SI/ T**, 有稿同伝) と原稿付き逐次通訳 (サイトラ逐次、**consecutive interpretation with text ; CI/ T**, 有稿交伝) の二種類が想定される。楊承淑 (2001) ^vでは、SR を同時通訳の準備として位置づけ、「サイトラ記号の付加」と呼び、以下のように述べている。

通訳原稿にいかにも効率よく記号を付けるかという問題は、サイトラ技法の中核的なポイントである。それに関わる問題として、上記の情報焦点を提示するためにハイライトや下線などの記号を加えるほか、読むために書かれた文を、通訳用に短く区切る方法を考えなければならない。いわば、原語に対するセグメンテーション (**segmentation**) であり、原語と訳語の語順・語法をなるべく一致させるように訳出していくことを目的とする。—中略—この同通サイトラを意識した記号の付加は、「一般原則」に基づき考えれば単純な作業であるが、語順や文構造の大きく異なる言語間のサイトラにおいては、極めて難しい手法である。

3.1 文の切り分け

同時通訳にせよ、逐次通訳にせよ、文を切り分ける目的は精密な理解と順送りの訳出を可能にすることにある。文の切り分けは、伝統的な通訳訓練ではある程度まとまった情報単位 (訳出可能な意味のまとまり) に分けるという考えから「チャンキング (**chunking**)」と呼ばれることが多いが、研究論文などでは文を切り分けることに着目して「セグメンテーション (**segmentation**)」と呼ぶこともあり、中国語でも分割するという意味で「断句」または「分句」と表現される。さらに音声テキストに意味単位ごとのポーズを入れながら聞いて理解することを「区切り聴き」と呼ぶ。本稿では「切り分け」と呼んで以下のように定義する。

・「切り分け」とは、同時通訳において訳出を開始することが可能な箇所 (情報単位、または意味のまとまり) にスラッシュ (/)、文を構成することが可能な箇所 (一文を終了させることでできるまとまり) にダブルスラッシュ (//) を入れること。

3.2 記号付け

SR は切り分けを主とするが、そのほかに 2.1 の実例に見られるように、動詞・数字・接続詞・並列情報・時間や空間を示す語などにも記号がつけられている。これらに記号を付すことによって情報の脱漏や誤訳を防ぐことができる。前述の通訳原稿 SR の実例では動詞・数字・虚詞を囲み、連体修飾部分を > で示し、並列情報を [] で括る方法が用いられていることがわかる。

すでに高い読解力を身につけている場合は同じ囲み線を用いてもマークされた語句がそれぞれ異なる性質を有していると判断できるので問題はないが、精密な読みの能力が通訳翻訳に期待されるレベルに達していない訓練生の指導においては、語法を意識させるために語句の働きによって異なる記号を充てるのが望ましいだろう。そこで「記号付け」を以下のように定義する。

・「記号付け」とは、語法関係を明らかにするために各種のマークを用いて原稿に印付けをすること。

3.3 順送りの読解

SR はもともと精密な訳出を念頭においた技法である。切り分けごとに理解し訳出することで「返り読み」や「二度読み」をせずに情報提示の順序どおりに理解し訳していくことを伝統的な通訳訓練では慣習的に「頭ごなしの訳」と呼んできたが、ここでは「順送りの訳出」という名称を用いる。順送りのメリットは、

長文であっても短い句や単文が連なって構成されるものであることを意識させ、長文に対する心理的な抵抗感を排除することが可能になること、相対的に短いスパンで処理することで記憶の負荷が軽減され長文読解が容易になること、書き手（話し手）の思考の順序にそった理解が可能になること、読みの速度と理解度が向上することにある。切り分けごとの訳出を行うとごちない不自然な訳文になりがちであり、当然ながら翻訳としての完成度は低いが、最終加工前の「半製品」の訳文を作る役割が期待できる。

・「順送りの読解」とは、切り分けと記号付けを行った原文を、意味のまとまりごとに理解し訳出していくこと。

4 新しいSR法の提案

SRを指導する際には、前述2-1及び2-2で述べた通訳者向けのSRをそのまま導入することはできず、通訳を目的としたSRとは異なる方法を検討しなければならない。読解力が不十分な学習者の指導においては、語法を意識しながら一字一句（さらに文章記号）も忽せにしない読みを身につけさせることを目標とする。そこで、本稿では新たに「読解力向上を主な目的とし、翻訳をも視野に入れたSRの指導」について例文を用いて提案したい。

例文（『情景漢語』より引用^{vi}）

有人说：“电视节目中收视率最高的不是新闻，也不是连续剧，而是天气预报”。这样的说法可能有一定的道理，因为天气和男女老少、各行各业都有密切的关系。明天是晴是雨，是冷是热，早点儿知道的好处是不言自明的。台风、寒流、冰雹等灾害天气的预报更加使人们关注。中国幅员广大，气候情况复杂，全国各地有数以百计的气象台和气象站。中国的许多农谚有着预测天气变化的意思。比方说，“东风解冻”、“瑞雪兆丰年”、“有钱难买五月早”等等。这些朴素的谚语在农村一代一代地流传到今天。

まず、この例文を読解しやすく加工することから開始する。訓練生の誤訳例分析で、名詞・動詞・形容詞・などの実詞に関するエラーは少ないことがわかっているので、順送りの理解を目指して文を切り分け、語法的に適切に理解することを目指して虚詞を中心にしたSRを行う。

4.1 意味のまとまりによる切り分け（/、//で表示）

まず読点（,）、句点（.）、コロロン（:）、セミコロン（;）を機械的に切り分ける。デジタル・テキストを用いればワードの「検索置き換え」によって簡単にスラッシュを入れることができる。置き換えの結果は以下ようになる。

有人说：/“电视节目中收视率最高的不是新闻，/也不是连续剧，/而是天气预报”。//这样的说法可能有一定的道理，/因为天气和男女老少、各行各业都有密切的关系。//明天是晴是雨，/是冷是热，/早点儿知道的好处是不言自明的。//台风、寒流、冰雹等灾害天气的预报更加使人们关注。//中国幅员广大，/气候情况复杂，/全国各地有数以百计的气象台和气象站。//中国的许多农谚有着预测天气变化的意思。//比方说，/“东风解冻”、“瑞雪兆丰年”、“有钱难买五月早”等等。//这些朴素的谚语/在农村一代一代地流传到今天。//

4.2 主・述関係（・で表示）

次に「是」を手がかりにして主述の関係を明らかにする。ここでは「是」の後に・を加える。これも検索置き換えで記号付けする。

有人说：/“电视节目中收视率最高的不是・新闻，/也不是・连续剧，/而是・天气预报”。//这样的说法可能有一定的道理，/因为天气和男女老少、各行各业都有密切的关系。//明天是・晴是・雨，/是・冷是・热，/早点儿知道的好处是・不言自明的。//台风、寒流、冰雹等灾害天气的预报更加使人们关注。//中国幅员广大，/气候情况复杂，/全国各地有数以百计的气象台和气象站。//中国的许多农谚有着预测天气变化的意思。//比方说，/“东风解冻”、“瑞雪兆丰年”、“有钱难买五月早”等等。//这些朴素的谚语/在农村一代一代地流传到今天。//

4.3 存在（*で表示）

「有」の前に記号「*」を付加する。ただし文頭の「有」には付加しない。

有人说：/“电视节目中收视率最高的不是·新闻，/也不是·连续剧，/而是·天气预报”。
//这样的说法可能*有一定的道理，/因为天气和男女老少、各行各业都*有密切的关系。//明天是·晴是·雨，/是·冷是·热，/早点儿知道的好处是·不言自明的。//台风、寒流、冰雹等灾害天气的预报更加使人们关注。//中国幅员广大，/气候情况复杂，/全国各地*有数以百计的气象台和气象站。//中国的许多农谚*有着预测天气变化的意思。//比方说，/“东风解冻”、“瑞雪兆丰年”、“有钱难买五月早”等等。//这些朴素的谚语/在农村一代一代地流传到今天。//

4.4 動詞

動詞は実詞であるが、中心的な文意を構成すること、日本語への訳出では後置されることからマークが必要であると考え。ここでは枠で囲んで示す。ある程度の読解力がある場合は、上述の「是」や「有」を同様に処理してもよい。その場合は副詞および助詞も含めてマークすることでより正確な訳出が期待できる。

有人说：/“电视节目中收视率最高的不是·新闻，/也不是·连续剧，/而是·天气预报”。
//这样的说法可能*有一定的道理，/因为天气和男女老少、各行各业都*有密切的关系。//明天是·晴是·雨，/是·冷是·热，/早点儿知道的好处是·不言自明的。//台风、寒流、冰雹等灾害天气的预报更加使人们关注。//中国幅员广大，/气候情况复杂，/全国各地*有数以百计的气象台和气象站。//中国的许多农谚*有着预测天气变化的意思。//比方说，/“东风解冻”、“瑞雪兆丰年”、“有钱难买五月早”等等。//这些朴素的谚语/在农村一代一代地流传到今天。//

4.5 修飾・被修飾関係 (>で表示)

ここでは「的」に注目し、同様に「的」を「的>」に置き換える。ただし、句点の前の「的」には>を付加しない。

有人说：/“电视节目中收视率最高的>不是·新闻，/也不是·连续剧，/而是·天气预报”。
//这样的>说法可能*有一定的>道理，/因为天气和男女老少、各行各业都*有密切的>关系。//明天是·晴是·雨，/是·冷是·热，/早点儿知道的>好处是·不言自明的。//台风、寒流、冰雹等灾害天气的>预报更加使人们关注。//中国幅员广大，/气候情况复杂，/全国各地*有数以百计的>气象台和气象站。//中国的>许多农谚*有着预测天气变化的>意思。//比方说，/“东风解冻”、“瑞雪兆丰年”、“有钱难买五月早”等等。//这些朴素的>谚语/在农村一代一代地流传到今天。//

4.6 並列関係 ([]で表示)

ここから先の作業は置き換えによる自動処理はできないので手動で行う。文中から「、」および「和・与・及」で示される並列情報を探し出し、[]で括る。

有人说：/“电视节目中收视率最高的>不是·新闻，/也不是·连续剧，/而是·天气预报”。
//这样的>说法可能*有一定的>道理，/因为天气[和][男女老少、各行各业]都*有密切的>关系。//明天是·晴是·雨，/是·冷是·热，/早点儿知道的>好处是·不言自明的。//[台风、寒流、冰雹]等灾害天气的>预报更加使人们关注。//中国幅员广大，/气候情况复杂，/全国各地*有数以百计的>气象台[和]气象站。//中国的>许多农谚*有着预测天气变化的>意思。//比方说，/[“东风解冻”、“瑞雪兆丰年”、“有钱难买五月早”]等等。//这些朴素的>谚语/在农村一代一代地流传到今天。//

4.7 時間と空間 (■で示す)

「在・于」および後続の「上・中・下・里」に注目する。

*有人说：/“电视节目中收视率最高的>不是·新闻，/也不是·连续剧，/而是·天气预报”。
//这样的>说法可能*有一定的>道理，/因为天气[和][男女老少、各行各业]都*有密切的>关系。//明天是·晴是·雨，/是·冷是·热，/早点儿知道的>好处是·不言自明的。//[台风、寒流、冰雹]等灾害天气的>预报更加使人们关注。//中国幅员广大，/气候情况复杂，/全国各地*有数以百计的>气象台[和]气象站。//中国的>许多农谚*有着预测天气变化的>意思。//比方说，/[“东风解冻”、“瑞雪兆丰年”、“有钱难买五月早”]等等。//这些朴素的>谚语在农村一代一代地流传到今天。//

4.8 接続関係 (___で示す)

中国語の連詞には以下のようなものがある。和、跟、同、与、而（並列）、接着、于是（連続）、不但、而且（累加）、还是、或者（選択）、因为、所以、因此、既然（原因・結果）、虽然、尽管、但是、可是、不过、然而（逆接）、只要、只有、除非、不管（条件）、要是、如果、假如、即使、就是（仮定）、与其、宁可、宁愿、宁肯（取捨）、例如、比如、比方（例挙）。これらは句と句、文と文の関係を示す重要なマーカーなので見落とすことはできない。またこれらの連詞には呼応表現を伴うものも多いので、あわせて注意深くマークする必要がある。

有人说：/“电视节目收视率最高的>不是・新闻，/也不是・连续剧，/而是・天气预报”。//这样的>说法可能*有>一定的>道理，/因为天气和[男女老少、各行各业]都*有>密切的>关系。//明天是・晴是・雨，/是・冷是・热，/早点儿知道的>好处是・不言自明的。//[台风、寒流、冰雹]等灾害天气的>预报更加使人们关注。//中国幅员广大，/气候情况复杂，/全国各地*有>数以百计的>气象台和气象站。//中国的>许多农谚*有着>预测天气变化的>意思。//比方说，/“东风解冻”、“瑞雪兆丰年”、“有钱难买五月旱”]等等。//这些朴素的>谚语在>农村一代一代地流>传到今天。//

4.9 使役と受身 (___で示す)

「让・使・被・叫・给」を探し出してマークする。

有人说：/“电视节目收视率最高的>不是・新闻，/也不是・连续剧，/而是・天气预报”。//这样的>说法可能*有>一定的>道理，/因为天气和[男女老少、各行各业]都*有>密切的>关系。//明天是・晴是・雨，/是・冷是・热，/早点儿知道的>好处是・不言自明的。//[台风、寒流、冰雹]等灾害天气的>预报更加使人们关注。//中国幅员广大，/气候情况复杂，/全国各地*有>数以百计的>气象台和气象站。//中国的>许多农谚*有着>预测天气变化的>意思。//比方说，/“东风解冻”、“瑞雪兆丰年”、“有钱难买五月旱”]等等。//这些朴素的>谚语在>农村一代一代地流>传到今天。//

5 SR から読解・翻訳へ

4-1 から 4-9 までの作業で切り分けを行い、さらに虚詞に焦点を当てて記号付けをした原文をスラッシュごとに読むことによって、短いスパンで意味を取ることが可能である。上述では電子テキストとワードの検索置き換え機能を用いて機械的に加工したが、実際の授業では印刷テキストを配布し、ペンや蛍光マーカーを使いながら作業を行うほうが効率的であろう。また、この作業に習熟するにつれて、切り分けと各種の記号付けをしながら同時に読み進んでいくことが可能になる。次に、SR に基づく翻訳プロセスと翻訳の役割について述べる。

5.1 切り分けごとに訳出

スラッシュで切り分けた部分ごとに順送りに訳していく。この段階では不自然な日本語になっても、原文に忠実に逐語的な訳を作っていく。

有人说：/

こんなことを言う人がいる。

“电视节目收视率最高的>不是・新闻，/

「テレビ番組の中で視聴率が最も高いのはニュースではない。

也不是・连续剧，/

連続ドラマでもない。

而是・天气预报”。//

それは天気予報だ。

这样的>说法可能*有>一定的>道理，/

このような言い方にはおそらくある程度の道理がある。

因为天气和[男女老少、各行各业]都*有>密切的>关系。//

なぜなら天気と老若男女、いろいろな業種にはみな密接な関係があるからだ。

明天是・晴是・雨，/

明日は晴れか雨か、
是・冷是・熱、 /
寒いか暑いか、
早点儿知道的>好处是・不言自明的。//
早めに知る良いところは言わなくても明らかだ。
[台風、寒流、氷雹]等灾害天气的>预报更加使人们关注。//
台風、寒波、雹などの災害気象の予報はさらに人々を注目させる。
中国幅员广大， /
中国は面積が広大だ。
气候情况复杂， /
気象状況が複雑だ。
全国各地有数以百计的>气象台和气象站。//
全国各地に数多くの气象台と気象ステーションがある。
中国的>许多农谚有着预测天气变化的>意思。//
中国の多くの農事から生まれたことわざに天気の変化を予測する意味がある。
比方说， /
たとえば、
[“东风解冻”、“瑞雪兆丰年”、“有钱难买五月早”]等等。//
「東風は氷を溶かす」、「瑞雪は豊年のしるし」、「金があっても五月の日照りは買えない」等
など。
这些朴素的>谚语在农村一代一代地流传到今天。//
これらの素朴なことわざは農村で代々伝わって今日に至っている。

5.2 逐語訳から翻訳へ

切り分けごとに訳出して得られた逐語訳を編集し、自然な訳出にすることで翻訳を完成させる。以下に翻訳の一例を示す。

「テレビ番組の中で視聴率が最も高いのはニュースでも連続ドラマでもなく、天気予報だ」と言う人がいる。この言葉はおそらくある程度は当たっているだろう。というのは、天気は、老若男女や様々な業種を問わず、全ての人に密接に関係しているからだ。明日は晴れるか降るか、寒いか暑いかを前もって知ることの良さは言うまでもない。台風、寒波、雹などの災害気象の予報はさらに人々の注目するところである。中国は国土が広大で気象状況が複雑なので、全国各地には数多くの气象台や気象ステーションがある。中国の農事から生まれたことわざの多くは天候の変化を予測する意味を有している。たとえば、「東風が吹けば春になる」、「瑞雪は豊年のしるし」、「五月の日照りは天の恵み」等など。これらの素朴なことわざは農村に代々伝わって今日に至っている。

5.3 翻訳の役割と効果

訳読法が外国語の運用能力を高めるか否かに関しては様々な議論があるが、訳出が的確に読めているかどうかを確かめる手段となることは間違いない。筆者が大学で指導する中国語科目のクラスやゼミにおいても、学生自身は「読める」、「文の意味は理解している」と考えているようだが、翻訳例を見ると、実際には漢字（実詞）の表面的な意味と想像力に頼って恣意的な解釈を行い、さらに間違った解釈をしていることにすら気がついていない現状がある。

また、母語による完成度の高い翻訳を確認することで初めて原文の意味をより正しく理解することができるとも言えよう。特に学習を始めて3年以降には卒業論文の資料を正確に読み解くなど長文を正しく読解する能力が求められることになる。そこで、SRを用いて語法にもとづく丹念な読みの習慣を育成することには大きな教育的効果が期待できると考える。

6 まとめ

漢文を訓読する際に訓点を打ち、送り仮名をつけて理解する方法に、われわれ日本人は古代から慣れ親しんできた。白文を訓読する際には漢文法に基づき虚詞を手がかりとして返り点を打つスキルをまず身につけることが求められる。現代文でも同様に漢字の羅列を切り分け記号付けをしながら読み進んでいく SR 法はまさに現

代の漢文訓読・直読直解翻訳法であると考えられるのではないだろうか。

本論では中国語の読みにおいて学習者がおろそかにしがちな虚詞に目を向けさせ、フィーリングにたよった不正確な読みを矯正し、語法的に正しく理解し適切に訳出するための SR 指導について簡単に述べるにとどまったが、今後はクラスでの実践指導を通じて、SR 法に改善を加えるとともに、効果の有無を実証していきたい。

-
- i 単独で文の主要成分となることができる具体的な概念を表す語。名詞、動詞、形容詞、数詞と助数詞、代名詞。
 - ii 単独では文成分にならない語。文法上の働きをするだけで具体的な概念を表さない副詞、介詞、接続詞、助詞、感嘆詞、擬声語を指す。
 - iii 篠塚勝正「大学英語教育における通訳訓練法の考察」(2009、成城英文学 pp.31-49)、安藤富雄「区切り読みを用いた英文読み取りの指導」(日本福祉大学情報社会科学論集 11, 23~34, 2008)、
 松山晋「スラッシュリーディングについて」(秋田県立大学総合科学研究彙報 8, 57-62, 2007)、
 行野顕正、田中省作、富浦洋一、柴田雅博「統計的アプローチによる英語スラッシュ・リーディング教材の自動生成(自然言語)」情報処理学会論文誌 48(1), 365-374, 2007、土居誉生、隅田英一郎「スラッシュ・リーディングのためのテキスト分割」(情報処理学会研究報告・コンピュータと教育研究会報告 2004(68), 25-32, 2004)、田中省作、山本祥平、富浦洋一「チャンキング過程を考慮したスラッシュ・リーディング用文書の生成」(情報基盤センター年報 4, 1-8, 2004)。
 - iv しかし最近に通訳養成校にも第二言語の読解力が不十分な基礎レベル訓練生が増えてきていることもあり、より詳細な SR 指導が求められている。
 - v 楊承淑「サイト・トランスレーションの機能と技法」(日本通訳学会編『通訳研究』第 1 号、2001、p.24)
 - vi 第二十四章の「朗読」部分を使用した。

参考文献

今富正巳『しくみで考える中国語読解教室』白水社 1998

武吉次朗『日中中日翻訳必携』2007

フランツ・ポエヒハッカー『通訳学入門』2008

楊承淑「サイト・トランスレーションの機能と技法」日本通訳学会編『通訳研究』第 1 号、2001

邱質朴『情景漢語』朋友書店 2004